

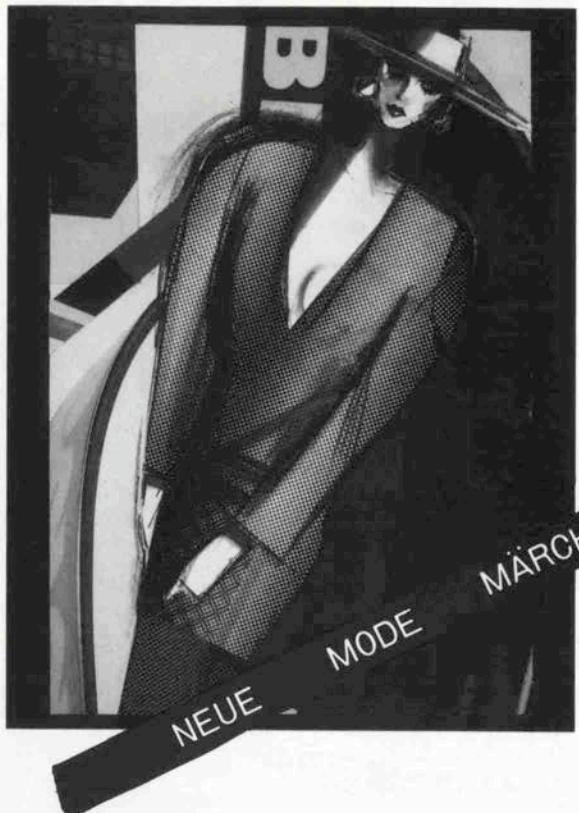
ミラノモダニ

えと文

篠原順子
(スチリスト)

背の高い大きな木々は、いっせいに白い花をつけ、覆いかぶさるようにミラノの街の太陽をさえぎっている。深いみどりがうつそうと涼し気。花屋さんもこぼれるように沢山の花をワゴンに運んだり、道で売ったりして、五月のミラノは美しい。

夏のモードが紺を中心に、さわやかにウインドウを飾





る。アルマーニのシンプルでモダンな完成された大人の服、クリッツアの丸い肩、カーブのあるスカート。曲線の造型的な美しさは、シルエットがバツグンで、再びフオルムの素晴しさが見直されている。しかも今日的表現での構築的な新しさ、ミラノのモダン・グラフィックとぴったりしなのだ。

十二の作品によせる十二の風景（その七）

一竹辻が花・光・風

吉村

由美

（エッセイスト）

絵／南 和好

久保田一竹氏の個展は、今年一月、東京ラフォーレミュジアム赤坂を皮切りに、横浜、水戸、千葉、神戸、広島、大阪、岡山、ふたたび東京、京都、福山、そして札幌へと七月まで主要都市で開催されている。四月が神戸、五月が大阪、六月が京都である。

晩春から初夏への、陽光に光りの明度がましはじめ、五月から六月にかけて神戸の街の夕暮れは、冬の季節には感じられぬ優艶なバラ色に染められる。わずかなひと時、夕映えにつつまれる残照の色であろう。神戸の夕暮れはその落陽のなごりを、ひとたびバラ色に映じて街の風景を染め、海から近づくコバルトブルーにまざりあいながら、しだいに暗色を加えた藤紫に、そして一気に紺青の色へと移行してゆく。夕づく日（夕方の太陽）はあまりにすばやく、その光彩をかえてゆくのである。海上空にはすでに宵の明星が光りはじめた。私は一竹氏の作品にみる「夕づく」（宵の明星）という色調を想う。肩から袖にかけての牡丹は墨の描絵として描かれ、淡いブルーの地色はせまりくる暮色を、胸のあたりから裾への紫がかつたバラ色は、落日の太陽が一瞬に染める、残照の艶なるみやびである。白い絞りの部分は、ひめやかに光りはじめる「夕づく」の星影でもあろうか。

一竹氏の作品は、きわめて具象的なイメージを象徴的世界へと引きずりこむ、夢幻性をもつてゐる。二十才の若き日、一片の辻が花（裂）に出会い、久保田一竹独自の創造的作品にゆきつくまで、約四十年の年月である。室町から桃山時代に女性の小袖染めとして存在し、江戸初期にあまりにも急速に姿を消し去った「幻の染」辻が花の、性格調の高さとすぐれた意匠を、一竹氏は、そのはかなく消滅した染の技法をただ再現するのみではなく、一人の個有な染色家が全生涯を賭けた新しい創造的作品として

具象化してみせる。十四才で友禅師のもとに弟子入りし、さらりにろうけつと紅型を独習。十七才で日本画を学ぶ。二十才で辻が花（裂）に出会い、これが現在の「一竹辻が花」へと昇華させる、運命的な邂逅であつたといえよう。しかし久保田一竹氏の作品の真価がみとめられるまでには長い年月の試行錯誤と、ひたむきな技法への研究と、辻が花染に賭けた絶えざる修練の持続があつた。

第一回の個展は一九七七年。一竹氏六十才である。その後は毎年の個展はむろんのこと、ロサンゼルスのフィラトン美術大学、パリのエルヌスキ美術館で「久保田一竹展」を開き、その作品は高く評価されてきた。久保田一竹氏の作品は、単に着物という概念をこえた、美術の分野における芸術である。六年間のシベリア抑留生活のうちに、激しい望郷の思いで見つめた夕日の強烈な印象体験いらい、夕日のテーマは、たとえば絢爛たる「光響」連作へと示現されてゆくのである。そして水の連作の一つ「朝光」は朝もやにけふる湖の水面と萩の描絵。水の連作は印象派の画家モネの色調を思わせ、水面をかすかにゆれさせる、あるかなきかの風、そこに搖曳する光りの静寂を形象化している。

今回の個展に展示された「光響」はむしろ秋の連山に紅葉した辯の色をさらりと紅に染める落日の夕映えが、作者の心の深い想いをメインテーマとして一挙に噴出した作品であろうと思われる。「光響」というタイトルも、光りの交響詩として絢爛たる壯絶さをもつ意匠であり、それは日常的な章味での着物の概念をこえはてた、美術的世界なのである。しかし「光響」連作はむしろ一竹氏が四十数年をかけてたどり得た厳しい技法への集積と、夕日のテーマを作品化した激烈な表象なのであり、沈潜し抑制された幽遠の精神性とは、まったく逆の、自らの創造

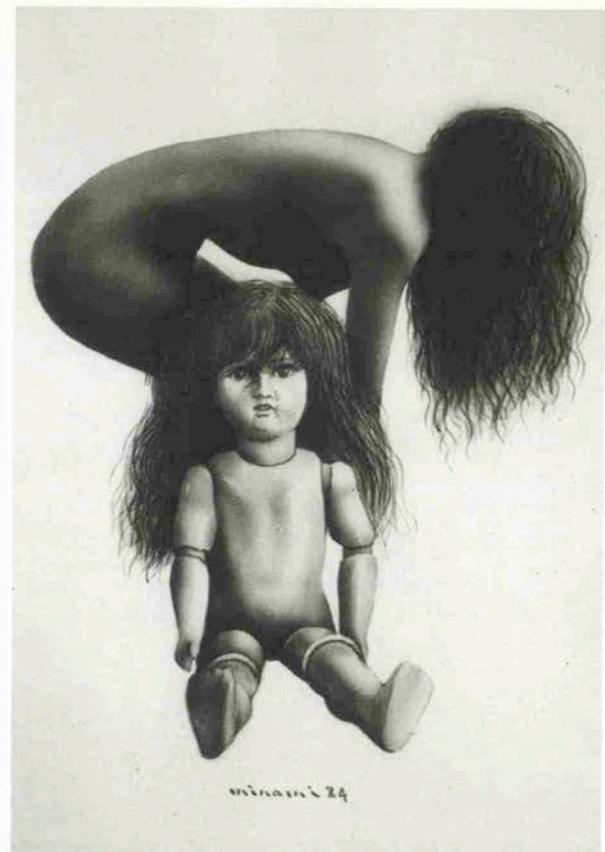
への全靈を投じた結果の制作であるようと思われる。夕日のテーマが、今後どのように深化し変貌をとげゆくのか、それは一竹氏の内的世界にかかわる命題であり、氏の作品を芸術作品として受けとどめる私たちにとっても、より莊厳なる格調への、志向性の展開がとげられてゆくのか、その内実と成果を見きわめたいという思いがある。

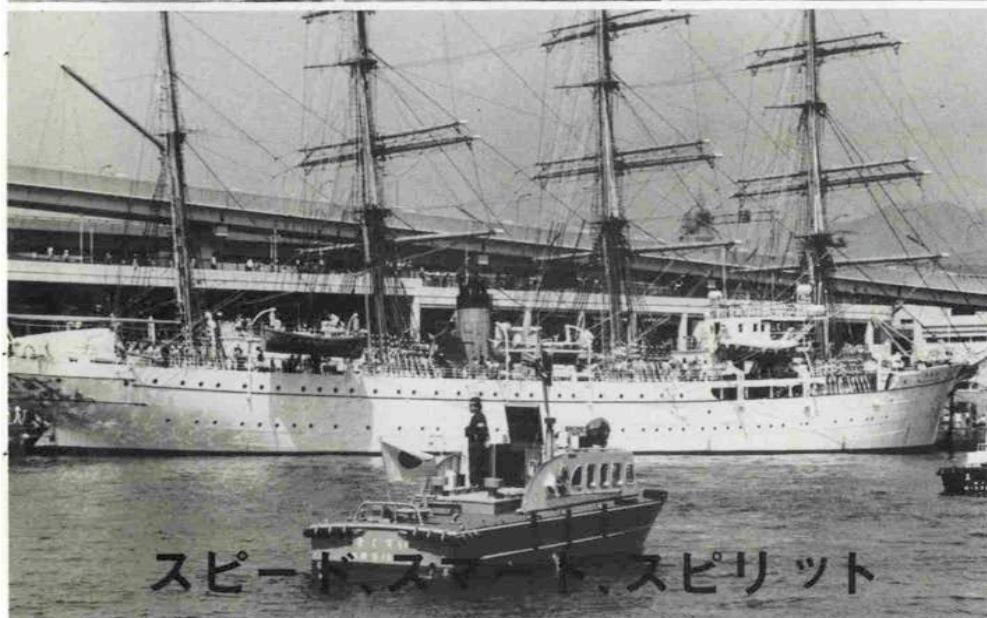
一竹氏の作品は振り袖として仕立てられたものよりも、小袖が私は好きだ。振り袖は「一竹辻が花」グランドショードとか、宴の席にはふさわしいものだが、私自身の好みからいえば、小袖仕立ての品格を感じさせる凜然たる趣をもつ能衣装。さらに舞台衣装などを一竹辻が花のきわめて個性豊かな現代的感覚と、日本の伝統的な美的理念の格調を、新しく再創造するものとして、作品に永遠の命を投影させてほしいと願うのである。

氏の連作のなかでは、私には「清姫」の「桜華」、「純」「飛翔」「情」がもつとも好ましい。桜は清姫の艶麗さの象徴であり、「華」は女人の情念のきらめきを華麗に具象し、「純」は愛の純粹なまでの清純さを、「飛翔」は心に深く沈む憂愁を絞りと墨の線描で氣品の作

ある抑制的のきいた名品として結晶させている。そして小袖に仕立てられた「清姫」の「情」は淡い桜色がかたたうす紫地に肩から裾に流れる花の描絵、女の情念が純化され、優婉にして腐たけた、それは精神性と姿形の理想そのものとしての見事な象徴的傑作であろう。

久保田一竹氏の着物は、それ自体が芸術作品であることを主張する。むしろ着物がそれを身にまとう人間を嚴格なまでに選ぶのである。グランドショードのような場でなら許されようが、あの作品としての重さ深さに耐えて、いやそれよりも、一竹の象徴的世界を、よりあでやかに品格のあるものとしてビタリと着こなせる魂の輝き、もしくは勁節にして清艶な女こそ、一竹氏の作品をその姿に示現することが許されよう。日本の伝統的芸術に秘められる精神と、現代的な感性の一体化された人格のうちに、自らの命を焼きつくす魂の冴えに耐えうる創造的人間にこそ一竹氏の作品はふさわしい。軽薄なもの、猥雑なもの拒絶する厳密さが一竹の作品の真価である。たんなる外面の姿ではない。磨かれた精神と愛を憂愁と孤独のなかで、自らを一筋の道に賭けた人の魂を包み、幽遠の世界にまで引きれる鮮烈な象徴の世界を、一竹の作品は具象化してみせるのである。





3Sがモットーの水上署

海船港



働いているおとうさんより遊んでいるおとうさんの方が好きですか——と洋酒のコップが語りかけてくる。

五月連休。

働いているおとうさんと家族サービスで遊ばれるおとうさんたち。

さらに。

忙しいおとうさんと忙しくないおとうさんどちらが好きですか。

子供にとっては忙しいおとうさんは寂しい限りだが、しかし、消防署や病院のおとうさんたちは忙しくあってはしくない。

同じく。おまわりさんも——。



水上署のすぐ裏に警備艇の船着場がある。警備の確認を行う藤本武雄警ら課第一係長左

五月六日、連休最後の日——ポートターミナルの第四突堤には人があふれんばかり。なにしろ停泊中の帆船「日本丸」は神戸港最後の姿であるから当然である。さらに午後からは「シブガキ隊」のコンサートがポートアイラン市民広場駅西のスペースで催される。ファンの女の子が大挙つめかけるだろう。

そこでおまわりさんの出番となる。

兵庫県神戸水上警察署。ここには倉田稔署長以下一七名の警察官が勤務している。「水上」と冠されているので、海上警備だけと思われがちだが、陸上にも管轄がある。兵庫突堤からポートアイランド、摩耶埠頭にかけての東西、臨港道路から南側の一帯がポートアイランターミナルである。このように陸も海もは世界でも珍しい。

六派出所、二台のバトロールカー、六隻の警備艇をかえ、交代勤務の24時間体制である。

さて五月六日午前十時。

警備艇「はちぶせ」に同乗して海上へ。

眼前に近づく日本丸に目をやりながら、藤本武雄同署警ら第一係長は、「日本丸の見学者が危険なことをすることは余り考えられませんね。マア、小さな子供が岸壁をのぞきこんで落ちることが心配ですが」と話します。

「溺れるといえば海水浴のシーズン。モーターボートやサーフィンの暴走行為の取締り、水難事故防止が大変ですね」

制服をつけ、ひとさまで遊び興じる姿を見渡しながら働く警察官。日頃は近寄りがたい存在であるが、警察のスタンスに我が身を置くと、ある種の感情移入をしてしまうのも無理からぬところ。

釣り人の群れが竿を垂れる防波堤の前を通過する。

「均人水難事故防止ももちろんですが、シーズンには渡し船の取締り、定員オーバーやもぐりの船が横行しましてね」。

他に密入国者の摘発など、二十五名の署員が海上警備を行っている。



(右上)高層住宅を背景に若さをぶつけるシブガキ隊 (同下)熱狂的なファン 事故がないようにね…。(中央)温厚で話し好きな人柄の倉田稔署長。水上署を率いて責任は重い(左上)危険防止のため立ちづめである (同下)打ち合わせに余念がない土居通雄副署長㊨と森勝次警ら課長

さて海上から陸上へ。

午後三時。ポートアイランド市民広場駅西側に設けられた特設ステージ。

「シブガキ隊」のコンサートが始まらんとしている。

会場は一万人のファンでふくれあがっている。

「事故がなくて当り前…と受けとられる仕事」と署長室で倉田稔署長が語っていたのを思いだす。

「水上署のモットーは3Sです。スピード、スマート、スピリット。また外国船が入港すれば外人の方が最初に見る日本の警察は我々ということになります。ですから頃から服装、態度はきちっとするよう心がけていますよ」と誇りと威信を強調する。

会場は「シブガキ隊」の登場を今か今かと待ちかまえるティーンエージャーたちの熱気で盛り上がっている。誰かの無意味な反応に周囲が陽動される。一步でも先んじようとするアーネーキーなグルーピー心理。昨年甲子園野球場でのヤングアイドル野球大会の終了後に起った死亡事故。あの悪夢は、一人の女の子が発した悲鳴が集団を駆り立て、命を押ししつぶしたものだった。

「タレントが現われる前は普通の女の子たちなんですがね」と森勝次課長は、今は羊のようにおとなしいファンを見渡してうなづく。「現われてからが大変で、警備のポイントはコンサートの最初と最後にあります」。

「シブガキ隊」が登場、ファンの絶叫が始まる。サッと緊張する五十二名の署員。

倉田署長はスピーカーの横で直立不動。大声で署長に聴いてみる。

「署長はこんな音楽苦手でしょう?」

「いやいや、私だって若い者とディスコに行くことがあるんですよ」親しみのある笑顔をつくつて答へ返す。

一時間にわたるコンサートは無事に終了した。イベント警備も最近では日常業務化したと署側は語っている。

忙しいおまわりさんより、忙しくないおまわりさんが我々にはいい。平和だから。遊んでいるおとうさんの傍らで働くおまわりさんありがとうございました」とコピートなく感謝したい。

楽しい食事と素敵なプライス

CAFE・RESTAURANT《サンズ》



世界の味の楽しさを一堂に集めて
洒落れたインテリアとT・P・Oに合わせたコーナー・レイアウトで……
あなたのNICE・EATS & NICE・DRINKSを素敵に演出いたします。
あなたの身近かなカフェ・レストランご来店を心よりお待ちしております。

神戸市中央区三宮町2丁目11-2 ファミリアB1

TEL-332-2552

営業時間 AM11:00-PM10:00



北京料理 神仙閣

中央区下山手通2-13
333-1)1263 無休

中央区采町通1-5-5
391-5511 火曜休

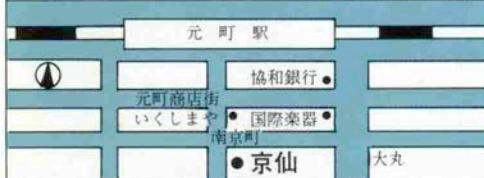
京仙

中央区下山手通2-13
333-1)1263 無休

中央区采町通1-5-5
391-5511 火曜休

本格派北京料理は
老舗の神仙閣
家族で楽しむ京仙

味にうるさい神戸っ子を満足させる、数ある中華料理店の中でも指折の味を誇る神仙閣。



当店にしかないあっさりした風味の酢豚をご賞味下さい。夏のスタイルナブくりに最適!
糖酢豚小皿￥800 中皿￥1200



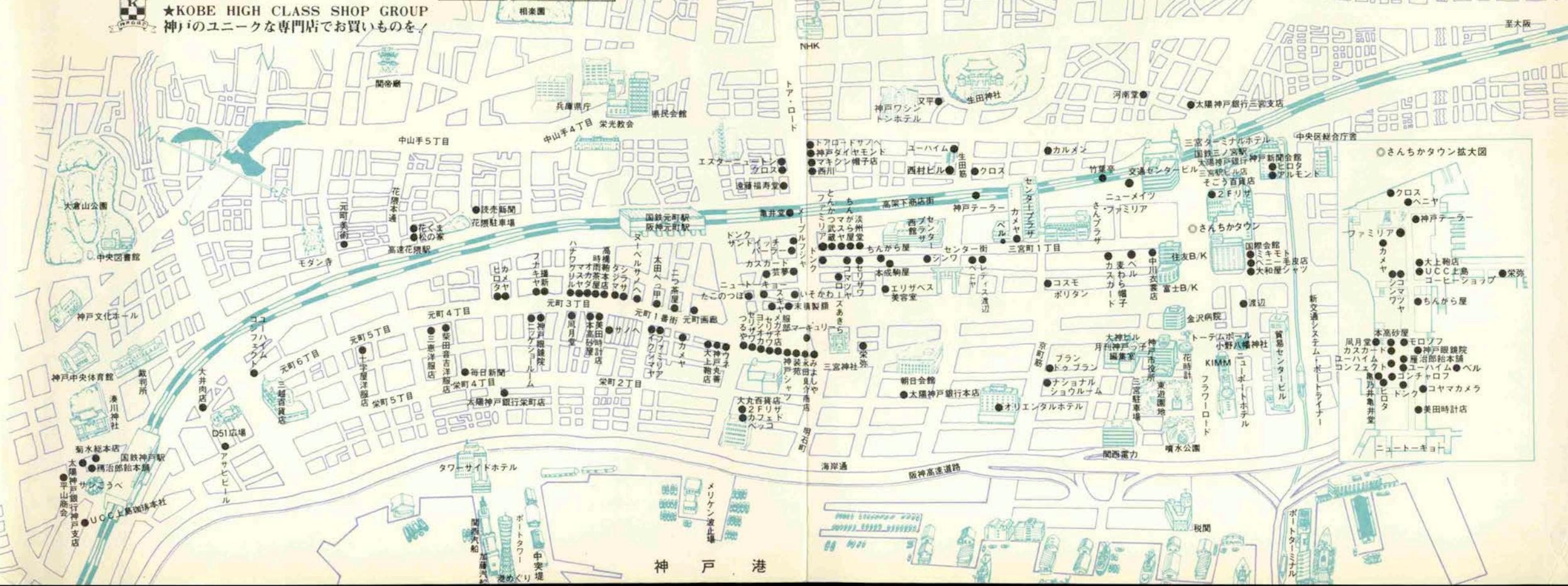
新鮮な材料をたっぷり使い、素材の風味を生かした、ボリュームたっぷりの前菜です。

神仙閣の姉妹店。味・ボリューム・良心的価格には定評があり、ファミリーで気楽に味わえるのが嬉しい。

KOBE
百店会
MAP

★KOBE HIGH CLASS SHOP GROUP
神戸のユニークな専門店でお買いものを！

- センターブラザ
- B1 ファミリーベル
- グランディカンパニー
- 1F ベル
- 1F ベニヤ
- 1F 大和屋シャツ
- 1F 五夢
- 2F 裝苑
- 2F シャンナ
- 3F リサ
- 神戸ポートアイランドホテル
- B1 つるや衣裳店
- 1F ファミリア
- 2F クロス
- 2F 田崎真珠
- 地図の都合上記入できないメンバー
- 六甲オリエンタルホテル
- インテリアイフニ
- 有馬温泉 古泉閣



新発売

Sherbest

Paspara

パッションフルーツ

ブルーベリー



メロン

コーヒー

ポイソンペリー



クレメンタイン

Jelly

Mouss

チーズ



ヨーグルト



チョコレート

フレッシュデザート
パスピーラ

パスピーラのキャッチフレーズは、"パステル色の風と光—
FROM 神戸"。 やさしく軽やかな風が、通りぬける神戸
の街。何気ないおしゃれにもキラリ、センスが光る—



Paspara



シャーベスト・ゼリー・ムース 3,000円

本高砂屋

パスピーラは、そんな女性
によく似合う本高砂屋のギ
フトコレクション。

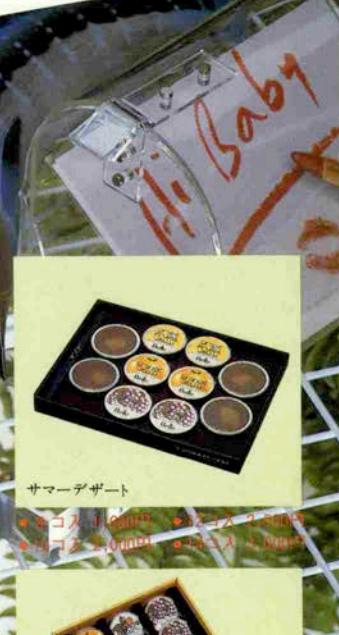
贈る人のセンスをお伝えい
たします。

サマーギフト
SUMMER GIFT



心も透きとおるみたい……

みずみずしい果実の味と香りがそのままのベルのフレッシュサマーデザート。
手づくりクッキーとセットされたものなど種類も豊富。サマーギフトに最適です。



サマーデザート

- コス 1,800円 ●ハイコス 2,500円
- ハコス 2,000円 ●ハイハコス 3,000円



ギフトセット

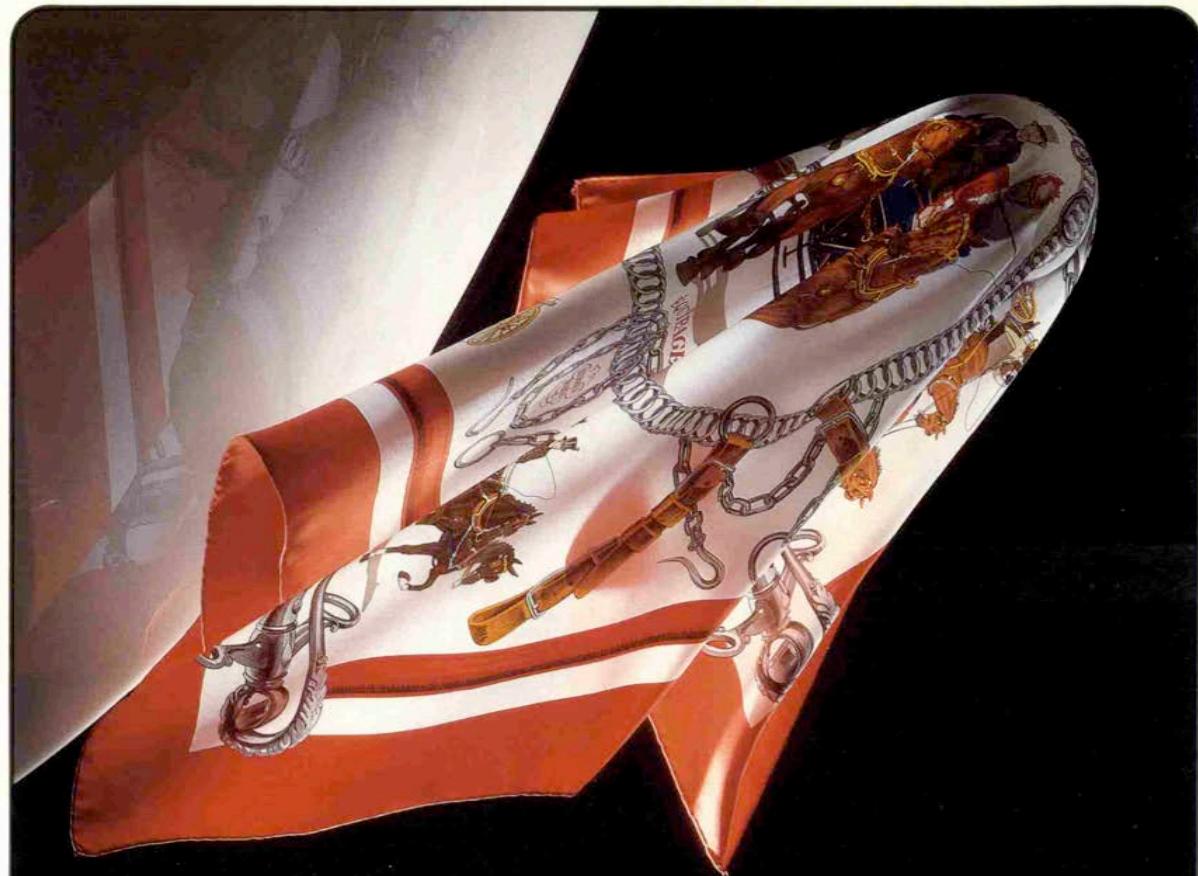
- クッキー&サマーデザート 2,900円
- ソルティーナッツ&サマーデザート 4,000円

神戸ベル

センター街本店 ☎331-0021

さんちか店 ☎391-3508

さんプラザ店 ☎321-1900



愛とロマンスの象徴

昔の西洋では、男女共に愛用されていたスカーフ。

女性は戦場に向う恋人のスカーフに、愛の結び目を作ったとか。

心を伝える無言のスカーフに、ふと熱いものを感じます。

何げなく身につけているスカーフの秘密は、限りなくロマンチック。

●エルメス スカーフ (綿100%) 32,000円 <1階ブティックエルメス>

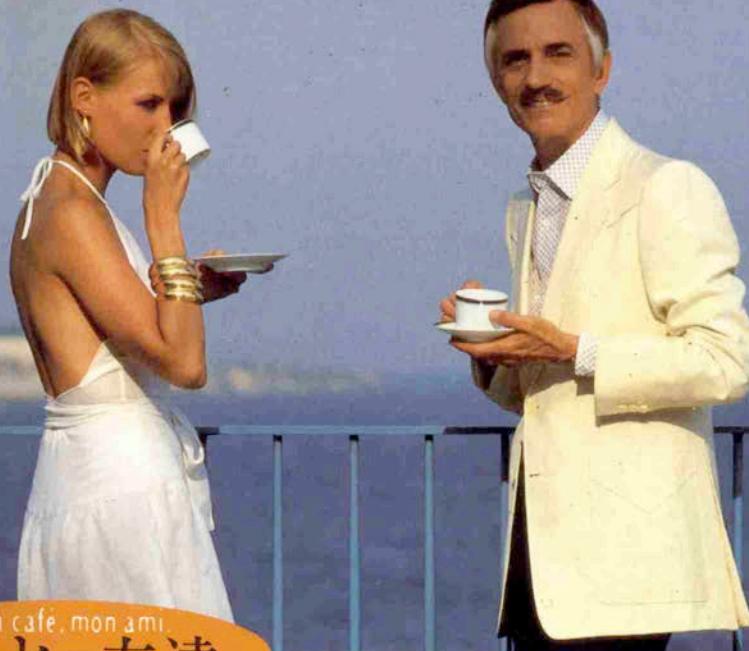


DAIMARU
大丸・もとまち

珈琲は音楽

波の音に遊ぶ午後

いい香りで演出したい：



Mon cafe, mon ami
コーヒー友達

炒りたて、挽きたての味と香り

UCC
レギュラーコーヒー



UCC オリジナルコーヒー
(バーフルターユ用
200g缶)



UCCアロマバッグ
(特殊ハーブ付
200g)



上島珈琲本社
總本社：神戸市中央区多聞通5-1
TEL (078) 361-8800㈹
支社：北海道・東北・関東・東海
中部・北陸・近畿・近畿西
中国・山陰・四国・九州・沖縄
支店：全國主要都市150ヶ所

発行・(有)月刊神戸つ子

神戸市中央区東町1-13の1

大神ビル9F

郵便番号650-0078

電話(078)331-2246

昭和59年7月1日発行

毎月1回1日発行

昭和40年1月20日第三種郵便物認可

ナニワ印刷(株)

印刷・発行／小泉康夫

価格380円

(送料70円)